

平成 26 年度「教育・研究図書有効活用プロジェクト」

# 事業報告書



## はじめに

日本科学協会の「教育・研究図書有効活用プロジェクト」は、平成 11 年度に立ち上げた国際交流プロジェクトで、中国の若者等を対象とした図書寄贈、「日本知識大会」、「笹川杯作文コンクール」、日本招聘、また日本の若者を対象とした「Panda 杯作文コンクール」と中国招聘など広範な事業展開により、日中相互理解の深化と友好交流の促進を図っている。

日中関係は依然として緊張状態にあるが、本プロジェクトは、両国関係者から多くの賛同と支援を得、日中の文化交流を民間レベルで継続することができた。

図書寄贈事業については、日本国内で約 168,000（累計約 3,735,000）冊の図書を収集し、中国の図書寄贈対象大学等に合計 163,336 冊（累計 3,413,824）冊の図書を寄贈した。また、「笹川杯作文コンクール」については、日中情勢を考慮して中国語版「コンクール」の開催を見送り、日本語版「コンクール」のみの開催となったが、中国全国の 136 大学の日本語学習者等から 1,879 点の作品応募を得た。

さらに従来 of 3 事業に加えて、新規事業である「Panda 杯全日本青年作文コンクール」を立上げて開催し、日本の若者の中国への理解と友好の深化を図ることにより、日中間の双方向の理解をより充実したものにした。

ここに、平成 26 年度「教育・研究図書有効活用プロジェクト」事業について取りまとめ、全般的な実施状況を報告する。

平成 27 年 3 月 31 日

公益財団法人日本科学協会  
業務部 国際交流チーム

## 目 次

1. 図書収集	3
2. 業務改善	4
3. 図書寄贈	5
4. 中国における打合せ・視察等の実施	7
5. 図書寄贈対象大学の追加	7
6. 「笹川杯全国大学日本知識大会」の開催	7
7. 「笹川杯作文コンクール」の開催	7
8. 「Panda 杯全日本青年作文コンクール」の開催	7
9. 「笹川杯全国大学日本知識大会・作分コンクール優勝者等日本招聘」の実施	8
10. 目標達成	8

# 1. 図書収集

## (1) 図書収集活動

良質な図書を効率的に収集するため、下記の方法により出版社や企業、大学・研究機関、公共図書館、個人等に協力を呼びかけた。

	提供依頼	活動内容		
		時期	方法	件数
1	出版社への依頼	9月	文書	302
2	出版社への依頼	2月	文書	290
3	専門図書館協議会関東地区協議会への依頼	9月、2月	FAX、e-mail、HP掲載	276
4	全国の国公立大学図書館への依頼	9月、2月	e-mail	107
5	東日本の私立大学図書館への依頼	9月、2月	e-mail	236
6	首都圏（1都3県）の地域図書館への依頼	9月、2月	e-mail	193
7	朝日新聞掲載記事による呼びかけ（別添1）	9月28日	記事掲載	
8	当協会 web サイト・ブログによる呼びかけ	通年	告知	
9	既・新規提供者への依頼	通年	訪問、電話、e-mail	

## (2) 図書収集実績

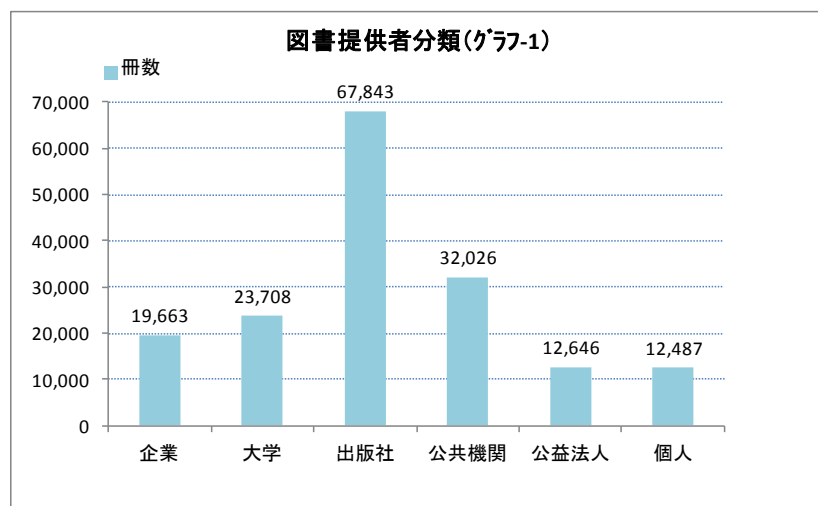
約 168,000 冊（提供件数：延べ 378 件）

前記（1）の通り積極的な収集活動を行った結果、多方面からの協力が得られ、168,373 冊の図書を収集した。このうち、新刊図書或いは新刊図書と同等な図書は 68,106 冊である。

なお、提供者別提供冊数・提供者数は、表-1、グラフ-1 のとおりである。

区分	冊数（A）	（A）の全体に占める割合	提供者数（B）	（B）の全体に占める割合
企業	19,663	11.7%	120	31.7%
大学	23,708	14.1%	25	6.6%
出版社	67,843	40.3%	48	12.7%
公共機関	32,026	19.0%	29	7.7%
公益法人	12,646	7.5%	57	15.1%
個人	12,487	7.4%	99	26.2%
合計	168,373	100%	378	100%

注）提供者数は、延べ件数である。

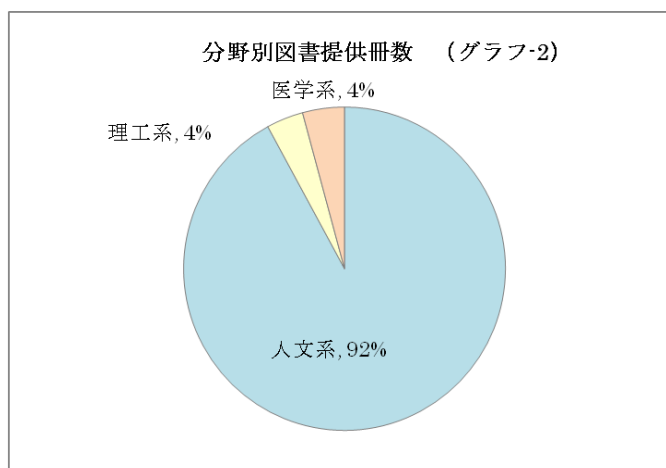


### (3) 収集図書分野

収集図書 168,373 冊の分野別収集冊数・提供者数は、表-2 及びグラフ-2 のとおりである。人文系が 155,049 冊 (82%)、理工系が 6,236 冊 (4%)、医学系が 7,088 冊 (4%) であり、分野によって大きな偏りが見られた。これは、寄贈図書に対する中国側の受入れ基準の高さにも分野によって偏りがあるためである。特に、技術の進歩が急速な理工系、医学系の図書については、受入れ基準が非常に高い（ここ 5 年以内の出版）ため、中国側のニーズに沿った図書の収集が困難であり、結果的に両分野の図書の収集冊数はごく少ないものとなった。他方、受入れ基準が比較的緩やかな人文系図書については、収集が比較的容易であり、収集図書の大半を占める結果となった。

区分	冊数 (A)	(A) の全体に占める割合	提供者数 (B)	(B) の全体に占める割合
人文系	155,049	92%	286	75.7%
理工系	6,236	4%	73	19.3%
医学系	7,088	4%	19	5.0%
合計	168,373	100%	378	100%

注) 提供者数は延べ人数である。



### (4) 収集図書の活用率向上

収集図書の活用率（寄贈可能図書数/収集図書数）の向上を図るため、図書提供者の協力を求め、次のような方法で図書を収集した。

- ① 図書の提供冊数が多い場合、事前に提供者の了解を得、現場において実物を確認しながら中国への寄贈の適・不適を判断基準に選択して収集した。
- ② 提供図書に関する既存のリストがある場合、提供者から事前に入手し、中国への寄贈の適・不適を判断基準にリスト上で選択して収集した。
- ③ 主に個人提供者に対しては、寄贈対象図書の基準（内容、発行年、外観等）を説明し、これに沿った図書の提供を依頼して収集した。

## 2. 業務改善

### (1) 運搬業務の委託

運搬経費の節減を図るため、図書提供者にも可能な範囲で送料を負担願うとともに、図書の集荷

については、次のように対応した。

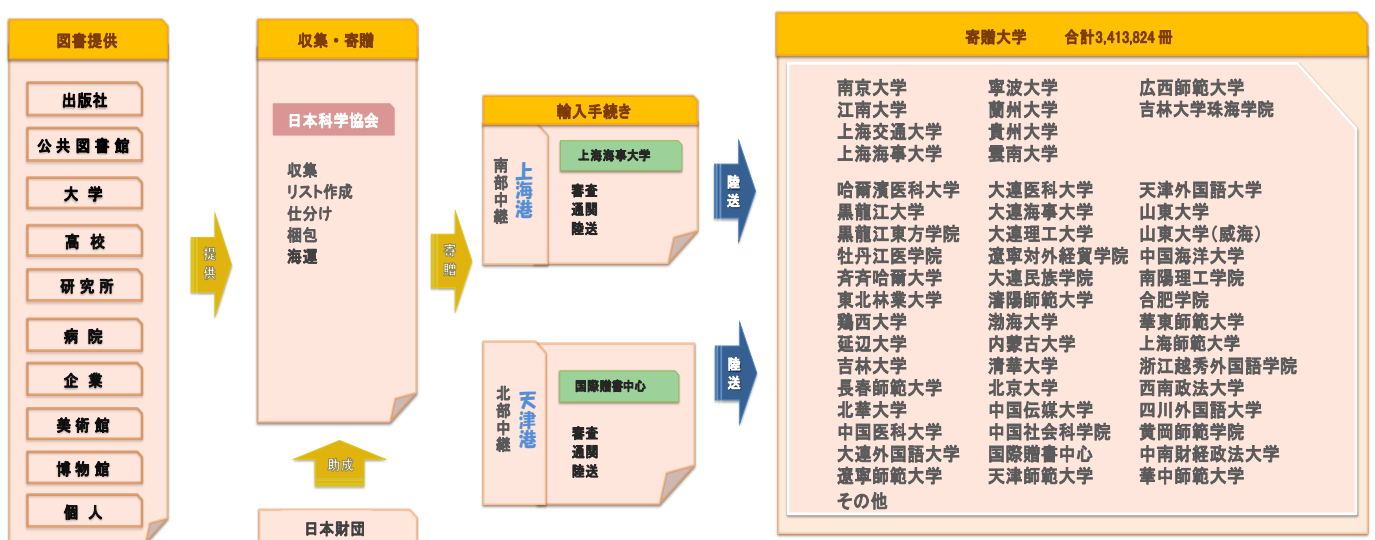
- ①近隣地域からの提供で少量かつ箱詰め作業等を要し、提供者からの了承が得られる場合、当協会が図書を選定のうえ箱詰作業を行い、図書の量に応じて適当な運送業者を選定のうえ運搬業務のみを委託した。
- ②遠隔地からの提供で少量かつ箱詰め作業が不要の場合、着払いの宅配便により集荷した。委託先としては料金割引契約を締結している佐川急便を指定した。
- ③10～25箱程度の提供の場合、必要に応じて箱詰め作業も含め、宅配便より割安な小口運送業者（赤帽）に委託した。
- ④近隣地域からの大量提供の場合、提供者からの業者指定がない限り、状況に応じて本会が料金等を見積り合せのうえ、委託業者を選定し委託した。
- ⑤遠隔地からの提供、或いは少量にもかかわらず提供者側での箱詰や佐川急便による発送が不可能な場合、コスト的な事情を提供者の理解を得て、図書の受領を辞退した。

(2) 中継機関設置による図書の中継寄贈

図書の寄贈については、中継機関経由による図書の中継寄贈により、日中両国における業務の簡素化・円滑化と経費の節減を図った。

具体的には、寄贈対象 49 大学・1 研究機関等への寄贈図書を經由港（上海港、天津港）により大別するとともに、各港にそれぞれ1つの中継機関(上海海事大学、中国国際贈書中心)を設置し、各寄贈図書を集約して輸出するというもので、輸出入業務に精通している中継機関が、輸入通関を始め受入れに関する一切の業務を実施するとともに、受入先別配送の手配も担当することにより、寄贈図書受入れの簡素化・円滑化に大きく貢献している。

中継寄贈のしくみ



3. 図書寄贈

本プロジェクトが策定した「図書寄贈方針」に基づき収集図書を寄贈先毎に選定し、各寄贈先と調整のうえ図書寄贈計画書を策定し、表-3 のとおり送付した。

平成 26 年度図書寄贈実績 (表-3)

寄贈対象大学	1回	2回	3回	4回	26年度	累計 (11~26年度)
	2014年6月	2014年11月	2014年1月	2014年3月	合計	
南京大学	93	188	226		507	199,935
江南大学			30		30	195,327
上海交通大学		41			41	71,878
上海海事大学	365	1,413	4,886		6,664	75,579
宁波大学	246	671	437		1,354	94,400
蘭州大学	311		23		334	41,493
貴州大学					0	201,454
雲南大学	2,801	6,657	1,928		11,386	166,518
広西師範大学	15	257	317		589	109,332
哈爾濱医科大学		875			875	55,481
黒龍江大学					0	148,221
黒龍江東方学院	18	1,503	520		2,041	181,076
牡丹江医学院					0	46,134
齊齊哈爾大学		76			76	73,227
東北林業大学					0	76,933
鶏西大学					0	78,759
延辺大学		1,122	312		1,434	134,234
吉林大学	9,141	577	19,497		29,215	212,152
長春師範大学	48	766	5,980		6,794	132,472
北華大学	206	191	732		1,129	1,129
中国医科大学		95	902		997	104,886
大連外国語大学	178	4,668	4,254		9,100	368,436
遼寧師範大学	35	121	79		235	48,989
大連医科大学		44	300		344	36,957
大連海事大学		230			230	86,642
大連理工大学	69	635	618		1,322	57,553
遼寧对外経貿学院	81				81	23,631
大連民族学院	118	2,624	3,593		6,335	41,856
瀋陽師範大学	439	661	249		1,349	24,657
渤海大学	15,627	6,641	2,567		24,835	47,663
内蒙古大学	57	466	667		1,190	3,129
清華大学	371	65	82		518	67,822
北京大学	265	125	96		486	1,670
中国伝媒大学					0	0
中国社会科学院					0	6,220
国際贈書中心						
天津師範大学	1,013	1,505	112		2,630	35,014
天津外国語大学		34	145		179	179
山東大学	415	62	462		939	9,406
山東大学(威海)	8,231	1,222	136		9,589	20,376
中国海洋大学			113		113	113
南陽理工学院		474	822		1,296	1,296
合肥学院				22,655	22,655	22,655
華東師範大学	531	126	2,847		3,504	27,658
上海師範大学		473			473	473
浙江越秀外国語学院		886	1,166		2,052	2,052
西南政法大学					0	12,680
四川外国語大学		479			479	479
黄岡師範学院	1,421	182	197		1,800	2,635
中南財經政法大学		127	128		255	255
華中師範大学					0	0
その他	163	2,721	4,997		7,881	62,708
寄贈合計冊数	42,258	39,003	59,420	22,655	163,336	3,413,824

## 5. 図書寄贈対象大学の追加

- (1) 覚書締結期日：2014年6月10日(5大学)、11月20日(2大学)
- (2) 内 容：本プロジェクトの広範な浸透に伴って高まり続ける中国側の図書寄贈への要望に応えるとともに、収集図書の活用率向上、寄贈の裾野拡張を図るため、追加候補に対する現地調査を実施して7大学を寄贈対象に追加するとともに、各大学との間で図書寄贈に関する覚書を締結した。
- (3) 追加大学：5大学(中国伝媒大学、中南財經政法大学、浙江越秀外国語学院、四川外国語大学、南陽理工學院)  
2大学(合肥学院、華中師範大学)

## 6. 「笹川杯全国大学日本知識大会」の開催

- (1) 開催日：2014年11月22日(予選)、23日(決勝戦)
- (2) 場 所：北京大学「英杰交流センター」
- (3) 参加者：参加89大学(選手各3名/合計267名)
- (4) 列席者：約430名
- (5) 内 容：中国の若者の対日理解・関心の深化、寄贈図書の活用促進、日本語教育の振興を図るため、中国の大学の日本語学習者を対象として、日本知識と日本語能力を全国規模で検証する機会となる「大会」を開催した。
- (6) 結 果：団体戦優勝 洛陽外国語大学、2位 北京大学、3位 南京工業大学 (副賞：日本招聘)  
個人戦入賞 6名(同上)

## 7. 「笹川杯作文コンクール」の開催

- (1) 実施機関：人民中国雑誌社(作文の募集、審査、広報等)
- (2) テーマ：「中日関係の行方」
- (3) 募集期間：2014年4月1日～2014年10月31日
- (4) 内 容：中国の若者の対日関心の喚起と対日理解の促進を図るため、当協会と人民中国雑誌社の共催により、中国全土の青年層を対象に日本をテーマとする日本語版の「作文コンクール」を次のとおり開催した。なお、中国青年報社と共催する中国語版の「作文コンクール」については、日中情勢を考慮して本年度の開催を中止した。
- (5) 応募総数：1,879点
- (6) 審査結果：優勝2点、二等賞2点、三等賞4点、優秀賞10点

## 8. 「Panda杯全日本青年作文コンクール」の開催

- (1) コンクールの開催
  - ①実施機関：人民中国雑誌社(作文の募集、審査、広報等)
  - ②テーマ：「わたしの目に映る中国」
  - ③募集期間：2014年8月1日～2014年10月20日
  - ④内 容：日本の若者の対日関心の喚起と対日理解の促進を図るため、当協会、人民中国雑誌社、中国大使館の三者共催により、日本の若者を対象に中国をテーマとする日本語による作文コンクール



を立ち上げて開催した。

⑤応募総数：225 点

⑥審査結果：優秀賞10点、佳作20点

## (2) 中国招聘の実施

①実施時期：2014 年 12 月 20 日～2014 年 12 月 26 日（7 日間）

②場 所：北京市、南京市

③招聘者：優秀賞受賞者10名

④内 容：日中相互理解の深化と友好交流の促進を図るため、「コンクール」優秀賞者を中国に招聘し、中国の大学生との討論会を始めとした人的交流、文化体験、訪問見学、中国外文局の授賞式など広範なプログラムを実施した。

## 9. 「笹川杯全国大学日本知識大会・作文コンクール優勝者等日本招聘」の実施

(1) 実施時期：2015 年 2 月 26 日～2015 年 3 月 5 日（8 日間）

(2) 場 所：東京都、埼玉県、兵庫県、大阪府、京都府、沖縄県

(3) 招聘者： 合計19名

・「知識大会」関係者 17 名（学生 14 名、引率者 2 名）

・「作文コンクール」関係者 3 名（受賞者 2 名、引率者 1 名）

(4) 同行者：2 名（日本の有志大学生/日中交流イベント実行委員）

(5) 内 容： 日中相互理解の深化と友好交流の促進を図るため、「知識大会」優勝者等と「作文コンクール」優勝者等を招聘し、「日中討論会」を始めとした各種日中交流イベントを開催するとともに、日本文化の体験、地域行事への参加、訪問見学などの広範なプログラムを実施した。

## 10. 目標達成

### (1) 図書の収集

日中緊張状態における民間交流の意義について各方面から多くの理解が得られ、約 168,000 冊の図書を収集した。これらの図書の提供者は各種図書館、出版社、企業、個人など 170 者を超えるが、広範な提供者に所蔵図書の有効活用機会、国際貢献機会を提供することができた。

また、朝日新聞記事（「Re ライフ」9/28）掲載により図書寄贈事業の広範な周知が図られ、全国から 70 余件の反響がありこのうち約 3 割が図書収集に繋がった。

### (2) 図書の寄贈

日中が緊張状態にあっても、本プロジェクトの寄贈図書に対する中国側の要望は強く、本年度内に合計 163,336 冊の図書を寄贈し、日本理解の深化、日本語学習の振興、日本文化や図書提供者の友好の伝播に貢献した。

中国の各寄贈先は、受贈にあたって 1 冊あたり約 4.5 元（日本円：約 90 円）の手数料を支払っており、本年度の寄贈図書（合計 163,336 冊）に対して各大学等が支払った手数料は、日本円に換算すると合計約 14,330,000 円になるが、これは寄贈図書のみならず日中文化交流としての当プロジェクトに対する中国側の評価の高さを裏付けるものである。

質の面においては、寄贈図書に関する日中間の認識共有を図るため、中国側の図書活ユーザーや図書館担

当者からの声に耳を傾けるとともに連絡・調整を密にするとともに、“贈りたい”、“贈られたい” 図書の積極的な収集という観点から積極的な働きかけを行った結果、要望に沿った図書の寄贈が図られた

国際交流基金の2012年版調査によると、海外の大学の日本語教育上の問題点として最も高いポイントを示しているのは「教材不足」、次いで「情報不足」であるが、このことは中国においても同様である。当プロジェクトの寄贈図書は、日本語教育における最重要課題であるリソースの充実に繋がるものであり、中国の日本語教育の振興のみならず知日派の育成に寄与することができた。

### (3) 「笹川杯全国大学日本知識大会」の開催

中国全土の日本語設置大学（506大学）の1/6強に当たる89大学（選手：約270名）が参加し、中国の最高学府とされる北京大学で開催される本大会は、中国の大学の日本語教育史にも残るビッグイベントであると同時に、参加選手にとっては、日本知識と日本語能力を全国規模で検証する貴重な機会であり、日本語学習者のモチベーション・アップに繋がった。

また、本大会は、日中首脳会談が開催されたとは言え、政治的には依然厳しい状況が続く中の開催であったが、NHK、TBS、毎日新聞、共同通信、人民日報、新華社、中国国際放送局、中国青年報社、人民中国雑誌社を始めとした多くのマスメディアを通じて広範な報道がなされ、日中民間交流の意義を印象付けると同時に日本財団及び日本科学協会の認知度、さらに本大会のブランド力の向上に繋がった。

### (4) 「笹川杯作文コンクール」の開催

日中情勢の影響により多くの日中交流が停滞する中、日本語版の「コンクール」を開催し、中国全土の24省・市・自治区の136大学の日本語学習者等から1,879点の応募を得たが、作文の募集、優秀作品の公開により、日本語学習者のみならず広範な中国人に、日中関係について考える機会を提供することができた。また、日中緊張状態の中での「コンクール」開催は、日本語学習者の学習目標のみならず励み・希望にもなった。

中国語版の「コンクール」については、共催機関の中国青年報社と開催に向けた協議を重ねたが、日中情勢を考慮して開催見送りとしたが、日中緊張状態における民間交流の意義を同社と共有し、来年度以降の「コンクール」再開、協力関係の継続等について協議してきた。

### (5) 「Panda杯全日本青年作文コンクール」の開催

日中関係が戦後最悪の状況にある時期に本「コンクール」を立上げ、広範な日本の若者の中国への関心喚起、理解促進を図るとともに彼らの中国観を広範に発信することにより、日中友好の機運を若者の中から盛り上げたことは非常に意義深くタイムリーであった。また、中国外文局周明偉局長も、本「コンクール」を「悪化した国民感情を回復させる」ものと評価しており、日中関係改善のためにプラスの効果をもたらしたと期待できる。

さらに、優秀賞受賞者を対象に実施した中国招聘は、日本の若者の中国への理解や友好の深化に繋がったのみならず、中国の若者、指導層など広範な人々の日本への理解と友好の深化にも繋がった。さらに、この訪中プログラムは、毎日新聞、人民日報、新華社、中国国際放送局、中国青年報など多くのマスメディアを通じて広範な報道がなされ、日中民間交流の意義を印象付けると同時に日本財団、日本科学協会の認知度を向上させるものとなった。

### (6) 「笹川杯全国大学日本知識大会・作文コンクール優勝者日本招聘」の実施

日中共同世論調査でも両国民の約9割が“相手国に良くない印象”を持つという状況の中、両国の若者が直接交流する機会は非常に貴重であることから、本招聘においては、“本音の交流”をキーワードに、約20名の日本側有志学生の参加を得て、日中討論会、東京視察などの交流プログラムを実施したが、両国

の若者の相互理解の深化と友人関係の構築が図られたのみならず、将来の日中関係の担い手という使命感を両国の若者が共有する機会となった。

また、東京での日中交流イベントについては、「Panda杯作文コンクール」訪中団員を中心とした日本の有志大学生組織の協力を得て企画・実施したものであるが、日本の大学生のボランティア精神、国際交流イベントの企画・実践力の育成にも繋がった。

さらに、日中討論会については、朝日新聞夕刊のトップ記記事（別添4）として掲載された他、TBS、毎日新聞、朝日新聞等を通じて広範に報道されたが、政治レベルでの日中緊張関係が続く中、民間交流の意義を社会に広く印象付けると同時に日本財団、当協会の認知度を向上させるものとなった。

#### (7) 情報発信

当プロジェクトの各事業に係る様々な情報を、当協会 web サイト・ブログ、小冊子等を通じて随時情報発信することで、プロジェクトへの理解、日中間の相互理解の促進に繋がった。

#### (9) 広報活動

「日本知識大会」、「日本知識大会・作文コンクール」日本招聘、「Panda 杯作文コンクール」中国招聘の実施にあたっては、日中両国の報道関係各社へのプレスリリース、報道関係者への取材依頼を行うことで、NHK、TBS、毎日新聞、朝日新聞、共同通信、人民日報、新華社、中国青年報、中国国際放送局、人民中国雑誌社を始めとした多くのマスメディアを通じて広範な報道に繋がった。これにより民間交流の意義を社会に広く印象付けると同時に日本財団、当協会の認知向上が図られた。